


多様なステークホルダーと挑む「貧困の連鎖」解消に向けた都市型モデルの構築

東京都足立区（2022年度選定）

1. 地域の特徴と課題及び目標	東京23区の最北端に位置し、面積は23区中3番目の広さである。人口は約70万人、23区で最も高齢化が進んでいる。荒川をはじめとする水辺や23区で2番目の広さである区立公園の緑など、豊かな自然環境が多く残っている。課題は、治安・健康・学力・貧困の連鎖の4つのボトルネック的課題（一番の根源的課題は「貧困の連鎖」）と区に対するマイナスイメージである。従って目標は、貧困の連鎖をはじめとしたボトルネック的課題の解消や区外からのイメージ改善により、住民の区に対する「誇り」を高めることである。	2. 関連するゴール 
3. 取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)	地域住民の力を引き出すために、「人づくり」と「場づくり」の事業を展開。潜在的な自分の“やりたいこと”を掘り下げ、高架下の利活用や駅前広場等で実践していく。街中での気軽なチャレンジの実践により、コミュニティビジネスの創出や地域で活躍する人材の輩出を図る。また、身近な大人たちがチャレンジを実践する過程を可視化し、それを見た子どもたちが自分の将来像を描く一助とする。	
4. 自治体SDGs推進等に向けた取組	6. 取組成果	
地域住民の力を引き出すために、「人づくり」と「場づくり」の両輪で事業を展開。 1 地域コミュニティ拠点「あやセンターぐるぐる」の運営 活動の場所として、綾瀬駅西口高架下の店舗を、地域コミュニティ拠点としてリノベーションし、地域住民の“やりたい”を伴走支援することで、大小様々な企画を実現している。 2 地域活動のリーダーを発掘する「アヤセ未来会議」 地域活動に意欲のある住民が集まり、アイデアを出し合い、実践するワークショップ「アヤセ未来会議」では、地域の活力をけん引する新たな担い手の発掘に取り組んでいる。 3 “やりたい”にチャレンジする場「ぐるぐる博」 各々の得意やスキルを活かし、地域に“やりたい”を発信するマルシェイベント。参加者同士のコミュニティ形成にも繋げている。	1 あやせセンターぐるぐる（高架下LAB） 「やってみたいを、やってみる」をコンセプトに、専門スタッフのコミュニティビルダーが徹底サポートし、地域住民の様々な“やってみたい”を実現している。 ■ 来場者数6,932名／相談件数127件／実現件数27件 2 アヤセ未来会議 「綾瀬をもっと愛される地域に」をコンセプトに、街をよくするアイデアを参加者が考え、形にしていくワークショップを開催。区が活動資金を出していないため、各プロジェクトごとに創意工夫して活動資金を調達している点が特徴的。 ■ 開催数9回／参加者数22名／実現件数5件 3 アヤセぐるぐる博 “やってみたい”を実践する場として、30～40代の若い世代を中心に、地域とともに作りあげるマルシェイベントを開催。■ 開催1回／出店数32店／来場者数4,466名	
5. 取組推進の工夫	7. 今後の展開策	
いずれの取組においても、参加者の主体性や参画意識を醸成するために、行政主導で仕切るのではなく、フラットな関係を築いている。利用者の声を踏まえながら、共に「やってみたいこと」を実現できるように、作り込んだ完成形ではなく、余白・関わりしろを残している。	モデル事業のレガシーとして①多様なコミュニティの形成 ②地域づくりのリーダーの輩出 ③共創の土壌づくりを想定している。これらを活かし、「あやセンターぐるぐる（高架下LAB）」の定期賃貸借契約が終了する2027年以降の自走に向けて、民間によるエリアマネジメントのような活動主体を立ち上げ、継続的に行政・民間・地域が協力して地域の活性化や賑わいの創出に取り組むほか、形成された多様なコミュニティにより地域が抱える独自の問題を解決していく。	
8. 他地域への展開状況 （普及効果）	・駅前の団地建替えや交通広場の再整備等、エリアマネジメント計画により転換期を迎える「竹の塚エリア」において、地域住民の“やってみたい”ことの実現を通じて、一人ひとりが活躍できる地域コミュニティづくりを展開していく。 ・2023年、行政視察5件・取材5件	